

3 巡目

第13回

四国あゝるき 遍路の旅



- 83番 一宮寺
- 84番 屋島寺
- 85番 八栗寺
- 86番 志度寺
- 87番 長尾寺
- 88番 大窪寺
- 3番 金泉寺
- 2番 極楽寺
- 1番 霊山寺



令和6年11月15日～17日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺

Title : 83番一宮寺

Date : 2024/11/15



初参加のお二人と歩きはじめ

7:45発の飛行機が15分遅れで離陸。空港から高松駅行きの空港リムジンで一宮で降りて、83番一宮寺のお参りが済んだら、最寄りの一宮駅からことでんに乗って、効率良く回ろうと思っていたのに、出鼻をくじかれるように、いきなりの遅れとなりました。そうすると、遅れ遅れが重なるもので、84番屋島寺麓の渦元駅到着時には、1時間近くの累積遅れでした。たまって嬉しいのは御朱印と預金ぐらいで、遅れも便秘もたまらない方がいいに決まっています。

先が案じられる歩き初めとなりました。

札所でのお参り

初参加の方もいらしたので、札所に着いてからの参拝について説明させていただきました。

山門で一礼して境内に入り、御朱印帳をお願いする人は一か所にまとめます。それから、本堂に行って般若心経をお読みしてお参り。つづいて大師堂にて般若心経をお読みします。出発時間を伝えますので、御朱印帳を受け取って、時間に遅れないように集合して出発です。



神社に惑わされるな！

一宮寺の手前に格式高そうな「田村神社」がありました。二巡目かその前の記憶かで、確か本殿のわきからお寺に行けたはずだと思って、迷いなく参道を進んで行きました。すると、かつてあった脇の門が閉鎖されていて、通り抜けることができませんでした。

結局、正門まで戻って神社の塀に沿った細い道に行く事になりました。お寺の山門はその細い道に面したところに、本殿に向かって構えられています。そうです、廃仏毀釈の典型的な有様です。しかも、神社の脇門のところまで塀が巡らせてあり、強い廃仏の意思が感じられました。

神社の立派な参道に誘われて、ちょっと惑わされてしまいました。





【上左】一宮駅の待合室で電車を待ちます。経験豊富な悦ちゃん、これからの歩きを予想して、靴のひもを締め直しています。【上中】待つことしばし、かわいい琴平電鉄こと、「ことでん」の電車がやって来ました。【上右】完全に貸し切り状態のことでん車内でした。

【左】駅員さんがマニュアルを片手に書いてくれた貴重な手書き、それもカーボン紙を使った複写の乗車券。これを書いてもらうのを待って、電車を一本乗り過ごしてしまいました。あー、また遅れがたまってしまう。でも、駅員さんは平然！時間の流れが違うのです。

お参りを終えると、時刻はすでに午後一時過ぎ。早朝家を出た人はとっくに空腹を通り越していたことと思います。境内のお堂の縁側をお借りして、遅めの昼ごはんとなりました。

縁側で食べるおにぎりは、なんとなく昔の遠足を思い出すようでした。

整備された遍路道で反省

一宮から乗ったことでん琴平線を、瓦町駅で志度線に乗り換えて、約一時間遅れて瀧元駅に到着。ここから屋島寺へは2.4kmですが、標高差約280mの登りでした。計算上、平均角度約6.75度、結構な登りでした。

聞くとところによると、この屋島寺への道は、市民の散歩コースだということではありませんか。なかには、仕事前にこの道を走って、それから仕事に出かける人もいるというのです。道理でよく整備された遍路道だったわけです。

しかし、ご丁寧に石段まで作ってあり、これがこたえるのです。その時には、普段から階段の上り下りをしなくっちゃと思うのですが、残念ながらのど元過ぎれば、千葉に戻ると平地なのを言い訳にして歩かないのです。その繰り返しです。



Title : 85番八栗寺

Date : 2024/11/15



【右上・右中】屋島寺から八栗寺に向かう遍路道。ただだか1.6kmの下りと侮るなかれ。計算すると、8.9度ほどの急傾斜でした。カニ歩きの方が多かったようです。
【下】急な遍路道を降りると、いったん舗装道路に出ます。これで安心は禁物。もう一か所下りの急傾斜が待っているのです。距離は短いですが、結構な難所といえます。でも、明日の大窪寺への足慣らしと思えば、そうきつくも感じないかも・・・。



右が御世話になった八栗ケーブルカー。こちらも屋島寺に負けず急傾斜の山です。ちなみに傾斜角度14.5度、だからケーブルカーがあることに納得できます。
山頂駅からうっそうとした緑のトンネルをくぐって境内へと入って行きました。



【左】本堂でお参り。すでに午後4時を過ぎており、境内に人影はまばらでした。

【右】御朱印をいただいた納経帳を分けています。御朱印と共に、本尊様のお姿や、シール・カードもいただけます。値上がりした分のサービスなのかなあ？



【左】最寄りの八栗駅に着いて、志度行き電車を待っている三人娘？
【下】なぜかこちらも三人ですが、なんと呼ばばいいやら？

屋島寺を出たのが午後1時45分。予定より1時間以上の遅れになってしまい、歩いて八栗寺に登ると暗くなるのが予想され、急遽八栗ケーブルカーのお世話になることにしました。八栗の急な直登を体験させられず、残念でした。



【左】今宵の宿に連絡をしている住職。先達でもあり、添乗員でもあるのです。スマホやコンビニがあるから、最初の頃よりはだいぶ楽です。

久々のへんろ宿

ことでん八栗駅を出発するころには、あたりはすっかり暗くなり、遍路では珍しく夜汽車での移動となりました。これが道中だったらと思うと、ぞっとします。ケーブルカー様様です。

予定していた志度寺へのお参りは次に日にすることにして、予約しておいた遍路宿には午後6時着となり、予定より1時間20分遅れになってしまいました。そそくさと汗を流し、夕食は6時40分から。席に着くなり、その豪華な料理に一同驚き！これまでにいくつもの遍路宿に泊まって来ましたが、その中でも群を抜いていると思います。

聞けば、料理屋さんが前身で、後から遍路宿になったのだそうです。朝食は宿一階のお寿司屋さんで、これまた豪華な朝食をいただくことができました。「とりあえずビール！」なんて言いそうになった人はいませんか？今日は、結願の88番大窪寺ですよ。難所女体山越えが待っていますからね。



旅の記録

第13回				令和6年11月15日～17日						
期日	曜日	コ		予		定				
1	11月15日	金	8:00発 (15分遅れ) 羽田空港	JAL475	9:30着	9:40発 空港リムジン	9:50着	【歩いた距離】約11.0km		
			一徒歩一 約1.0km	10:20着	83番一宮寺	10:40発	一徒歩一 約0.6km	10:50着	ことでん一宮駅	
			ことでん琴平線	11:23着	ことでん瓦町駅	11:40発	ことでん志度線	11:54着	12:00着	ことでん湯元駅
			一徒歩一 約2.4km	13:00着	84番屋島寺	13:45発	一徒歩一 約4.5km	15:45着	16:00着	八栗ケーブルカー山麓駅
			16:10着	85番八栗寺	16:35発	16:45着	16:55発	一徒歩一 約1.7km	16:55着	八栗ケーブルカー山麓駅
2	11月16日	土	17:38発	一琴電志度線一	17:55着	一徒歩一 約0.3km	18:00着	18:40～	宿泊:志度駅前「富士屋」 〒769-2101 さぬき市志度548-8 Tel 0120-051-175	
			ことでん八栗駅	琴電志度駅	富士屋	夕食	【歩いた距離】約12km	屋食:旭町バス停そばのローソンで各自購入		
			6:30発	一徒歩一 約0.7km	7:00発	一JR高徳線一	7:06着	一徒歩一 約3.0km	7:06着	【歩いた距離】約12km
			富士屋	JR志度駅	造田駅	8:41発	一コミュニティバス一	8:41発	8:41着	【歩いた距離】約12km
			7:50着	87番長尾寺	8:20着	一徒歩一 約0.2km	ローソンで屋食購入旭町バス停	お参り後屋食	14:15発	一コミュニティバス一
3	11月17日	日	8:56着	一徒歩一 約6.0km	12:40着	88番大窪寺	大窪寺バス停	【歩いた距離】約20.0km		
			15:16着	造田駅	15:12発	一JR高徳線一	15:21着	一徒歩一 約0.7km	15:35着	86番志度寺
			16:00発	一徒歩一 約0.7km	JR志度駅	16:15着	JR志度駅	16:26発	一JR高徳線一	宿泊:「AZホテル香川東かがわ店」 〒769-2701 東かがわ市湊字水入185 TEL0879-26-0331
			17:06着	一徒歩一 約0.7km	讚岐白鳥駅	ホテルAZ東香川	18:30～	夕食	【歩いた距離】約20.0km	
			6:30	7:20発	一徒歩一 約0.2km	7:30着	屋食調達	7:50発	一徒歩一 約0.3km	【歩いた距離】約20.0km
3	11月17日	日	朝食	ホテルAZ東香川	8:00着	一JR高徳線一	8:10着	乗換	8:25発	一徳島バス一
			8:00着	讚岐白鳥駅	引田駅	引田駅前バス停	【屋食】	13:30発	一徒歩一 約3.1km	3番金泉寺
			8:35着	一徒歩一 約11.0km	坂元東バス停	大坂口御番所跡	15:15着	15:50発	一徒歩一 約3.1km	2番極楽寺
			14:10着	14:45発	一徒歩一 約1.6km	17:09着	1番靈山寺	17:34発	一空港リムジン一	1番靈山寺
			16:20着	JR板東駅	16:47発	一JR高徳線一	20:40着	JR徳島駅	20:40着	羽田空港
18:03着	徳島空港	19:25発	ANA286便	20:40着	羽田空港	20:40着	羽田空港	【歩いた距離】約43.0km		

※表中の時刻は、宮本さんの記録に依ったものです。

Title : 87番長尾寺

Date : 2024/11/16



造田駅に7時6分に到着して歩きはじめ、長尾寺に7時50分着でした。まだ、納経所が開く前で、境内には人影がありませんでした。門前の通りも歩行者は見当たりませんでした。



上の写真の代物は、納経所の硯です。余分な墨を落とし、筆を調えるために、墨が固まってできた造形です。何年かかったのやら、何代の住職が使ったのやら、その間洗わなかったのかなあ、筆も洗わなかったのだろうかあと、多少筆を使う身としては疑問が湧いてくるのでした。

旅は道づれ

長尾寺から88番大窪寺に向かう遍路道は、大別して4ルートあります。当初は、梅ヶ畑バス停から山中に分け入る昔ながらの道を考えていたのですが、大窪寺発のバス時間を考え、少し先の山王バス停まで行く事にしました。梅ヶ畑からずっと山の中を歩くルートに比べると、女体山入口までだらだら舗装道路で、距離も短くなってしまいうルートで、物足りなかった人もいたかと思えます。

さて、バスを降りるとメンバーが1人増えているではありませんか。長尾寺門前のバス停で乗り込んできたカナダ人の女性でした。一緒に歩かせてくれというではありませんか。どうやらインバウンドの歩き遍路のようです。私たちに比べるといかにも軽装です。女体山を越えられなかった困るなあとおっしゃいましたが、次のバスは3時間後しかありません。旅は道連れという言葉の思い出し、一緒に山越えすることになりました。



【上】女体山登り口で女性陣とパチリ。まだ笑顔が見えます。【中】階段が整備されたきつい登り。四つん這いで登る所も。【左】ようやく女体山頂上にとどり着きました。



【中央】右から2人目が道づれになったカナダ人の女性。私たちの中に何人が英語が堪能な方がいらしたので、コミュニケーションがとれてよかったです。四国遍路もインターナショナルになってきました。

結願への生みの苦しみ

だらだら舗装道路を3kmほど進むと、右手に女体山入口が現れます。ここからが正念場です。いきなりの急登が始まります。足の置き所、手をかける場所など正しく念じながら歩かないと滑落の危険があります。一筋縄では結願までたどり着けない、まさに生みの苦しみといったところです。こそが歩き遍路の醍醐味といったところです。

生みの苦しみは登りだけではありません。「人生、下り坂最高！」と言った日野正平さんが亡くなりましたが、歩きではそうは行きません。一歩一歩、一段一段、足元を確かめながら降りなければいけません。「人生、下り坂再考！」です。





再び、インバウンドの歩き遍路と遭遇

予定より遅れたものの全員無事大窪寺に到着。予想された雨も、大窪寺に着いた時にサーッと降っただけで助かりました。

お参りを終えて昼食を食べるベンチに行くと、同行のカナダ人女性だけでなく、フランスから留学の女子大生、30代のイタリア人男性の歩き遍路に出くわしました。札所などで一緒になったりしたと見えて、彼らは顔見知りのような様子でした。

これもご縁だからと、一緒に集合写真に入ってもらいました。メールアドレスを聞いて、あとから写真を送る約束をして別れました。一期一会がメールのやり取りにつながったら、遍路の国際交流になると思いましたが、さてどうなることやら。





志度駅でお別れしました。女体山越えでは健康なかなかのつわもものです。どうぞお元気で！



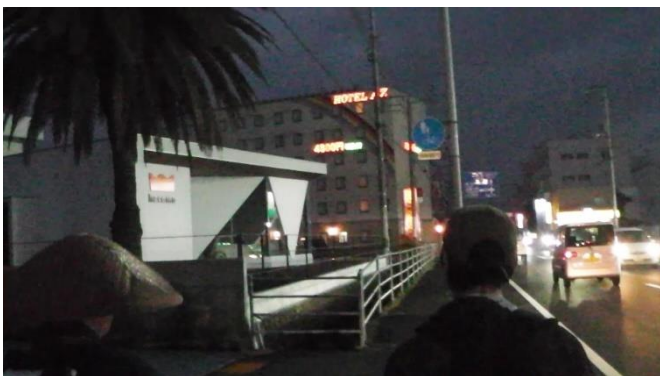
ジャングルなのか薬草園なのか？

いったいどこまでついて来るんだらうというカナダ人女性は、今日中に徳島に行くというので、志度駅でお別れとなりました。

さて、私たちには86番志度寺というやり残しの札所がありましたので、志度駅から歩いてお参りに行きました。夕べの遍路宿のある町です。暗い中を歩いた夕べとは違い、讃岐街道の旧宿場町という雰囲気を感じられました。

五重塔がそびえたつ志度寺の仁王門をくぐると、境内はジャングル状態です。禅宗のお寺の人間からすると強烈な違和感があります。ここの住職さんはお医者さんなので、もしかしたらあれはジャングルではなくて、薬草園なのかもしれないとどなたかが言っていました。

今宵の宿は格安ビジネスホテル



二日目のホテルの最寄り駅に着いた頃には、すっかり暗くなってしまいました。長〜一日が終わろうとしています。

夕食もホテルですから、チェックインしてしまえば、後は気が楽です。このホテルで特筆すべきは、ピュッフエスタイルの夕食の値段です。なんと驚きのディナー価格は990円！とてもあり得ない値段ですが、十分満足させていただきました。



さらにこのホテルの驚きは、ディナー時の飲み放題がこれまた990円！食事・飲み放題とも990円と聞いて、大丈夫かなと少し不安になりましたが、案ずるなかれ、生ビールも黒霧島も飲み放題に含まれていました。しかし、女体山越えを含む長い一日で疲れ果てたのか、思いのほか痛飲する人はいませんでした。

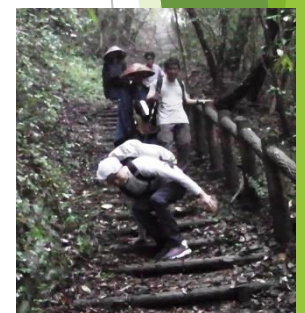


隠れクライマックス

遍路に行くたび、三日間のうちに雨が降ったり雪が降ったり、思いもかけぬ険しい山があったりします。そんな歩き遍路の中、今回のクライマックスはなんといっても女体山越えですが、それに隠れて3日目に歩く大坂峠が隠れクライマックスでした。今では歩く人もいませんが、かつては阿波と讃岐を結ぶ物流の主要道路だったようです。



登り始めは道幅も広く、石畳が敷かれてあるところあり、主要道路だったことを感じさせてくれました。登るにつれて道幅も狭くなり、標高が高くなると霧が立ち込めて幻想的な雰囲気となりました。県道1号を横切るといきなりの急な階段が待ち受けていました。完成した時からなのか、あるいは経年の結果なのか、足を置く所が傾いたコンクリートになり、その上に落ち葉が積もっていかにも滑り易そうでした。大金をかけて整備しても、その後のメンテナンスがきちんとしていないと、せっかくの整備も用をなさなくなってしまふ典型でした。日本国中の箱ものについて言えることだと思います。もちろんお寺もそうだと思います。まさに「照顧脚下」、足元注意で降りましょう



大坂峠からの急な石段で山口さんが転びかけた動画が残っていました。鮮やかな身のこなしで転倒を免れていました。さすが、往年のサッカー小僧。



右の写真は、大坂峠を徳島側に降りたところにある、番所跡の前で撮ったものです。

ここでフランスから留学している女子大生に追いつかれました。彼女は野宿しながらの歩き遍路だそうです。



Title : 3番から1番へお礼参り

Date : 2024/11/17



3番金泉寺

香川県の坂元というところから大坂峠を越えて約2時間半、ようやく3番札所の金泉寺にたどり着きました。

テント下のベンチに荷物を下ろすと、かのフランスの女の子のリュックがおいてありました。昼ご飯を食べて出発するところに追いついたようでした。女体山で追い越され、番所跡で追いつかれ、金泉寺で追いついて、二度あることは三度あるの、これが三回目の遭遇でした。

高速バスの時間があるので、お先にと行って先に歩いていきました。



2番極楽寺

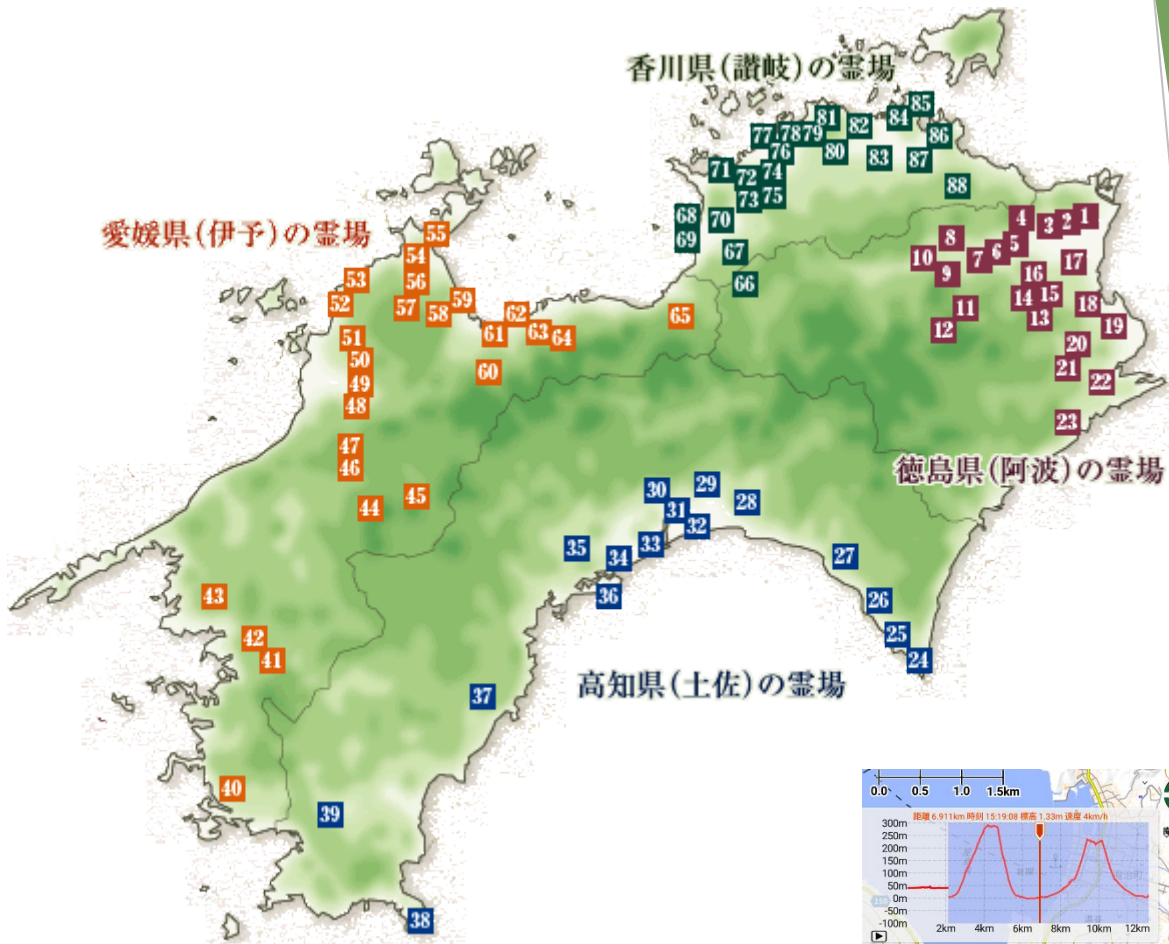
3番から2番極楽寺への遍路道は、境内右の奥まった所から続いているたんぼのあぜ道です。2番から3番への順打ちでも見落としてしまいそうな道しるべが建っています。そんな道を逆打ちできるのは、歩いた経験のあるお遍路さんしかできない歩き方です。とはいえ、イノシシ以外誰も歩いていない道らしく、種をついた雑草が生い茂り、その道を抜けてから衣をみると、あちこちに種が引っ付いているのでした。



1番霊山寺



1番まで戻って来て結願を迎えた宮本さんと栗田さん。住職と記念撮影をいたしました。新型コロナがあつたので、足掛け10年にもおよぶ長旅でした。途中欠けることもなく結願を迎えることができたのがなによりのご利益かと思えます。お疲れさまでした。



屋島寺から八栗寺まで歩いた軌跡と高低差の記録

あとながき

何日も前から四国地方の天気予報をチェックして、初日の雨は覚悟していましたが、奇跡的に本降りの雨に合わず、日ごろのみなさんの行いの賜物でした。

初参加の方がお二人もいて、その初参加が女体山越えの旅だったのはインパクトが強すぎたかなと心配しております。

それにしても、昨年11月の吹雪の歩き遍路と打って変わったの暑さには参りました。

88番、結願を迎えるというので、電車やバスを使って少々あわただしくなりましたが、現

地の交通事情などに免じてお許しください。

いつもながら、西川さん、小林さんによるたくさんの写真のおかげで今回の写真集がようやく出来上がりました。ご笑覧いただければ幸いです。

次回は、高野山へのお礼参りと、私たちの本山妙心寺へのお参りの旅となります。また、二日目か三日目に、新命さんが修行した京都八幡市の圓福寺専門道場にもお参りに伺う予定です。

今回寝食を共にしたお仲間で、また苦しく楽しい旅に出かけましょう。

圓福寺 四国あるき遍路の旅 3巡目第13回写真集

写真：小林 照彦さん
西川 浩平さん (ビデオから)
宮田 宗格
宮田 宗耕
文章：宮田 宗格
編集：宮田 宗格